

CHUSUGI ✕ BUNGA KUBU

スチューデント・ライブラリアン
活動報告

vol.6 - 2019年度



2019 年度

スチューデント・ライブラリアン活動報告

目 次

・ 年月を経て本を読み返す	文学部長 宇佐美 毅 …	1
・ スチューデント・ライブラリアン活動に寄せて	文学部長補佐 山科 満 …	2
・ 2019 年度スチューデント・ライブラリアン活動報告	中央大学杉並高等学校教諭 大山 裕隆 …	3
・ スチューデント・ライブラリアン 6 期生活動記録		… 4
・ スチューデント・ライブラリアン活動報告	文学部 人文社会学科 心理学専攻 4 年 田原 菜々子 …	5
	文学部 人文社会学科 国文学専攻 3 年 広瀬 礼実 …	7
・ リエゾン文庫書目一覧		… 9



スチューデント・ライブラリアン活動をおこなった学生の皆さん、おつかれさまでした。そして、それを後押ししてくださった中央大学杉並高校と文学部の関係の方々には心からお礼を申し上げます。活動報告にあたって、この機会に、私が読書に関して思うことを書かせていただきます。

1. 本を読むことは知識を得るためなのか

「本を読むことによってその本に書いてある知識を得る」というのは一面で真実でしょう。しかし、私がここで書きたいことは、本を読むことは、読む自分自身を見つめることだということです。

私は現代小説の研究者なので、「好きな作家は誰ですか？」と尋ねられることがよくあります。それに対しては「研究者に好き嫌いはありません」と答えることにしています。研究は好き嫌いであるものではなく客観性が重要だ、というのが、いわば私の公式見解です。実際に、研究者として本を読むときには、自分の好みや感情をできるだけ入れないように作品を分析していきます。しかし、研究者も原点は一人の読者ですから、やはり作家・作品への好みがないわけではありません。そして、その好みは、年月がたてば自然に変わっていきます。

2. 年月を経て読み方が変わること


たとえば、私は高校生から大学生の時期にかけて、太宰治をかなり読んでいました。傾倒したといってもよいくらい読んだと思います。そういう人は多いと思いますが、私もその一人であって、太宰作品の魅力に取り付かれた年代がありました。しかし、ある時期を境にして、太宰の作品とは距離を置くようになりました。むしろ、嫌悪感に似た感情を抱くようにもなりました。研究の上で、あるいは学生の指導の上で、必要に応じて読み返すことはありますが、若い頃に懸命に読んだ気持ちは、まったくといえるほどなくなっています。

その一方で、若い頃にわからなかった良さを感じる作品もあります。たとえば、夏目漱石の作品のうち、若い頃に面白く読んでいたのは『吾輩は猫である』『坊っちゃん』のような初期のユーモアのある小説や『三四郎』のような青春小説でした。しかし、もっと大人になってからは『行人』に特別な魅力を感じた時期がありましたし、さらに年を重ねた後には、若い頃にあまり面白く思えなかった『道草』や『明暗』に深い味わいを感じるようになっていきました。また、若い頃にユーモアのある小説として読んでいた『吾輩は猫である』や『坊っちゃん』の中に、単なるユーモアにとどまらない深い意味があることを理解するようになっていきました。

3. 本を読むことは自分を見つめること

つまり、本を読むことは単なる知識の獲得ではないということです。それは本と「私」とのコミュニケーションであり、対話でもあります。だからこそ、「私」が変化すれば、同じ本が違うものに見えてきます。「私」が人間的に成長すれば、同じ本に対してそれまで気づけなかったことが見えてきます。

だからこそ、皆さんには若い時期に多くの本に接してほしいのです。そして、一定の年月を経てから同じ本を読み返してみしてほしいと思います。年月を経てから感じたものは、そのまま皆さんに起きた変化の結果であり、成長の跡であり、年月の証しなのです。「いつかこの本をもう一度読み直してみたい」。そんな気持ちを持って読書に親しんだら、皆さんの人生はもっと豊かになるのではないのでしょうか。



図書室の主


文学部長補佐 山科 満

今年度もスチューデント・ライブラリアンは、高い士気を保ち続け、最後まで充実した内容で活動を終えました。2014年度から始まり、今年度で6年目を迎えた活動ですが、毎年毎年、ボランティアのスチューデント・ライブラリアン達は活動に工夫を凝らし、マンネリに陥る気配はありません。まずは、現場でご指導いただきました杉並高校の大山裕隆先生はじめ国語科の先生方に心よりお礼申し上げますと共に、この活動を支えて下さった校長の大田美和先生（英語文学文化専攻）他、杉並高校の関係者の皆様に感謝申し上げます。文学部社会情報学専攻の小山憲司先生には、ライブラリアン募集に関わり、応募者の背中を押していただきました。事務室の矢口勇哉さんには、毎回細かな連絡調整の労をおとりいただきました。多くの関係者のご助力があって成り立っている活動であることに、改めて思いたしております。

社会情報学専攻には図書館情報学コースが設置され、そこには司書・司書教諭を目指す学生も多く在籍しています。しかし、司書・司書教諭を目指しているのは、同コースに在籍している学生ばかりではありません。本学は全学に開かれた司書課程・司書教諭課程を有しており、本好きの学生であれば、誰でも（どこの専攻に所属していても）司書資格取得を目指すことができます。今回に限らず、スチューデント・ライブラリアンの役割を担ったのは、文学部のさまざまな専攻に在籍しながらそれらの課程で学んでいる学生たちです。このように専攻の枠を超えて多様な学びができるのは、文学部の大きな強みであり、スチューデント・ライブラリアンはその魅力を体現した存在といえるでしょう。

活動の質の高さは、外部の方々に対しても誇れるレベルであるといえます。スチューデント・ライブラリアンの中からは難関の司書公務員に合格する人が出ていますが、その学生は採用面接ではこの活動実績を積極的にアピールし注目されたとのこと。また、緑苑祭の展示を熱心に見入る受験生の親御さんには毎年のように出会います。用意した冊子が保護者の皆様に人気であつという間に品切れになってしまったということもありました。スチューデント・ライブラリアンは、杉並高校、そして中央大学文学部のアピールにも、確かに一役買っているのだと思います

スチューデント・ライブラリアンの活動にわずかですが関わり、私は思いがけず文学部の底力を垣間見たような気がしています。熱意ある学生たちが参画し、多くの関係者の支えを受けて、この活動が今後とも継続・発展していくことを心から願っております。来年度からは吉野朋美先生が新たに高大連携担当として関わりますので、引き続きどうかよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。



2019年度スチューデント・ライブラリアン活動報告

中央大学杉並高等学校教諭 大山 裕隆(高大連携担当)

2019年度のスチューデント・ライブラリアン活動も、大変充実したものとなりました。数年にわたって携わってきた担当者としては、うれしい限りです。新しいアイデアがどんどん出てくるのは、大学生と高校生のコラボレーションであることが大きいのではないかと考えております。今回の活動で特筆すべきことは、ライブラリアン以外の一般生徒の参加があったことです。

本年度は、文化祭において、二つの展示発表を行いました。一つ目は、本の帯を作る活動です。これは、出版社が宣伝のために本につける帯を、実際に作ってみようという企画です。企画を話し合う段階では、文化祭の来場者に帯を作ってもらおうという話もありましたが、それは人数を集めるのも困難で、時間的にも難しいであろうということになりました。そのかわりに、本校の生徒たちに帯を作ってもらおうという企画になりました。恥ずかしい話なのですが、中大杉並高校の図書委員会は開店休業中と言っても良い状態で、あまり活動しておりませんでした。ある日の放課後、図書委員会の生徒たちを集めて、スチューデント・ライブラリアンたちに活動内容を説明してもらいました。帯をつくる本は、生徒たちが全員が読んでいる、国語科から指定されている課題図書を選びました。図書委員は各クラス2名ずついます。24クラスから2名ずつですので、50枚近い帯が作られ、文化祭ではそれらが図書館に展示されました。学年ごとに課されている本は違います。それで、各学年から数冊選び、それぞれの本に対して5人くらいずつ帯を作ってもらいました。結果は大成功で、非常に美しい帯や独創的な帯が並び、文化祭の来場者の目を楽しませていました。

文化祭における二つ目の発表展示は、映画化された小説に関する展示です。こちらはクイズ形式で、来場者に興味を持ってもらう内容でした。具体的にはライブラリアンたちの文章をご覧いただきたいのですが、それぞれとても楽しそうな作品が選ばれ、映画も小説も両方読んでみたいと私自身も思うものとなりました。来場者たちも楽しんでくれていたようです。

読書会も例年通り行いました。今回は太宰治の「葉桜と魔笛」を取り上げました。こちらでも一般生徒の参加を募ったのですが、残念ながら希望者はおりませんでした。来年度以降、募集の仕方などは課題となりました。しかしながら、大変充実した読書会となり、一つの作品を深く読んでいくという行為を始めて体験した高校生は大変感銘を受けたようでした。

例年、本にラベルを貼るなどの作業の実習を行っているのですが、本年度は担当者が産休のため、残念ながらできませんでした。その点は大変申し訳なくしております。

昨年度、この報告書で「発信型の図書館」ということについて述べました。魅力的な情報やコンテンツを、社会に発信していくこれからの図書館のありかたをライブラリアンたちが見せてくれたように思えたからです。今回の一般生徒を巻き込んだ活動ということからは、地域社会などとのつながりについて思いを巡らせました。一般の人たちに図書館での活動に参加してもらって、より魅力的な場にしていくということです。利用者の相互的な関係を作ることで、より発展していく図書館の未来を、今年度のライブラリアンたちは見せてくれたと思います。来年度以降も、より活発な活動が行われることを強く期待しております。



スチューデント・ライブラリアン6期生 活動記録

2019年度

応募期間 4月2日（火）～5月17日（金）

選考方法 書類審査・面談

面談日程 5月27日（月）

応募者数2名 採用者数2名

第1回派遣 6月 8日（土）

第2回派遣 7月 11日（木）

第3回派遣 7月 23日（火）

第4回派遣 8月 13日（火）

第5回派遣 8月 22日（木）

第6回派遣 9月 5日（木）

第7回派遣 9月 12日（木）

第8回派遣 9月 19日（木）

第9回派遣 9月 21日（土） 緑苑祭（文化祭）

第10回派遣 9月 22日（日） 緑苑祭（文化祭）

第11回派遣 11月 16日（土）

活動報告会 12月11日（水）



私がスチューデント・ライブラリアンに応募させていただいたのは、これまで司書課程で学んできたことを生かし、学校図書館での活動を経験してみたいと考えたためです。スチューデント・ライブラリアンという活動があることは以前から知っていましたが、所属していた部活動の忙しさから応募できずにいました。部活の引退後、就職活動との両立に不安もありましたが、せつかくの機会を逃したくないという思いから、今回参加させていただきました。

緑苑祭では「課題図書・帯展示」と「映画原作本クイズ」の2つの企画を行いました。「課題図書・帯展示」は、中央大学杉並高校で各学年に出される課題図書を展示し、来場者に紹介するというものです。緑苑祭で図書室に来ることが多いという中学生とその保護者の方を対象に、中杉で読まれている本を知ってもらうことを目的として企画しました。また、ただ本を並べるだけでなく、本の紹介を兼ねた帯を図書委員と協力して作成し、課題図書と併せて展示しました。イラストやシールを使



ってかわいい帯を作った生徒、本の面白さを文章でびっしり書いた生徒など、同じ本でも書く人によって全く違う帯ができ、個性豊かな展示となりました。実際に展示を見た来場者からも好評で、ある中学生の女の子からは「スチューデント・ライブラリアンに参加してみたい」という嬉しい言葉ももらえました。2つ目の企画である「映画原作本クイズ」は、読書にあまり関心のない人にも興味を持ってもらうこと、来場者参加型のイベントを開くことを目的として企画しました。最近公開された映画の原作本



は高校生に人気があり、普段あまり本を読まない生徒も読むことが多いといえます。今回は『ナミヤ雑貨店の奇蹟』『君の膵臓がたべたい』『羊と鋼の森』『旅猫リポート』『海賊と呼ばれた男』の5つの作品を選び、それぞれ3問ずつ、計15問のクイズを冊子にして配布し、来場者に挑戦してもらいました。内容をしっかりと読まないといけないものも多く、苦戦する参加者もいましたが、幅広い世代の方に楽しんでいただくことができました。ただ黙々と読むだけではない、読書のちょっと違う楽しみ

方を知ってもらう良い機会になったのではないかと思います。

今回の緑苑祭は、中学生とその保護者に焦点を当てた「課題図書・帯展示」のように、来場者のニーズを踏まえた企画を行えた点は良かったのではないかと思います。ただ高校生の来場者が少なかった点については改善の余地があり、今後は高校生にとっても魅力ある企画を行っていく必要があると感じました。

緑苑祭後は、太宰治の『葉桜と魔笛』を題材に読書会を行いました。読書会の前に高校生から集めた感想をもとに話し合う予定でしたが、実際に読書会が始まると、用意していたテーマにとらわれない意

見が活発に飛び交い、予想していたよりも深く読みこむことができました。私自身、小説を題材にした読書会の経験がなかったため、読んだ感想を共有し、互いの考えを深めていく読書会ならではの面白さを体験することができ、とても貴重な経験になりました。

一年間スチューデント・ライブラリアンとして活動させていただいて感じたのは、高校生とともに企画やイベントを作っていくことの大切さです。企画を話し合う中で、高校生の斬新で柔軟な発想に驚かされる場面が多くありました。高校生が今どんな本を読み、何に関心を持っているかを知るには、やはり当事者の意見を聞くことが欠かせません。私は来年度から神奈川県図書館司書として働くことが決まっており、学校図書館が職場となることもあります。その際はスチューデント・ライブラリアンで学ばせていただいたことを生かし、高校生の意見を積極的に取り込みながら、生徒目線に立った図書館づくりに励みたいと思います。

最後になりますが、活動をサポートしてくださった大山先生、駒ヶ嶺先生、そして一年間ともに活動してくれたスチューデント・ライブラリアンの皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。



3年生になって学芸員の友人たちは準備をしていたので司書課程をとっていた自分も何かできないかと思ひ応募しました。スチューデント・ライブラリアンについては2年生のころにも聞いたのですが忙しくて応募に行けなかったので、今年こそはやってみようと思いました。

今年度での活動は大学生2人、高校生(1年生)3人の合計5人での活動でした。活動期間が短かったために今年度のメインとなる活動は2つのみとなりました。文化祭の展示と、読書会です。

文化祭では展示を2つ作りしました。映画の原作本を紹介するコーナーと、中杉高校の課題図書を紹介するコーナーです。映画の原作本紹介はスチューデント・ライブラリアンの5人で行いました。本の展示と、映画について登場人物などを紹介する模造紙を飾りました。

見ていってくれた方に「この映画、気になってたのよね。」と紹介の模造紙をほめていただきとてもうれしかったです。ただ、スペース的には奥まったところにあったため大勢の人には来てもらえず、どうすれば「この場所を活かして人に見てもらえるのだろうか」と考えるきっかけにもなりました。来年度参加したい、と思っているスチューデント・ライブラリアンの皆さんは頑張ってください。

後者に関しては高校の図書委員会の人たちに手伝ってもらい、課題図書の帯を作ってもらいました。図書委員会はあまり活動していなかった、と聞いて一緒にやってもらえないか、と思ったのです。課題図書は1学年ごとに5冊私たちが選びました。もともとのラインナップがジャンルもバラバラであるため、できるだけ重ならないように、かつ帯が作りやすいように、と本を選びました。



帯の作成はスチューデント・ライブラリアンの方で見本を作りました。作成期間を一週間ほどしか作れなかったため、また見本も十分に確認してもらえなかったこともありまじめに作ってくれた方も作中のセリフを大きく書いただけのやっつけ仕事のようなものもありました。クオリティの差こそあれど、多くの帯と課題図書を飾らせていただきました。

来てくれた方には帯を見てくれる方と、課題図書そのものについて興味を示す方がいました。受験を考えている中学生やその保護者の方の興味を引けたと思います。

展示をしたとき、どんな人が来てくれるのか。その人たちが喜んでくれるもの、また喜んでもらうためにはどんな展示をすればいいのか。いろいろと考える機会が得られました。スチューデント・ライブラリアンのように、主体的に活動する場だったからこそ得られた体験だったと思います。

次に読書会です。読書会ではスチューデント・ライブラリアン以外の一般生徒も募集してみたのですが、あいにくと応募はかかりませんでした。図書館を活発にするためにはスチューデント・ライブラリアン以外の生徒にも図書館に来てもらうことが必要かと思います。ぜひ、来年度の人たちには企画をしていただければな、と思います。

読書会では太宰治の「葉桜と魔笛」を題材に読み進めました。ちょうど太宰治をテーマにした映画がやっていたのでそこに関連して選んだのですが、今は読書会の題材としては難しい話だったかと思います。一般生徒が来ることを想定してスチューデント・ライブラリアンの感想は先に回収して、当日要約して発表という形になりました。

最初は作品内に残された謎について考えていたのですが、話が行き詰まり、見方を変えて姉妹の関係性について焦点をあてました。作中の時代背景や、姉妹二人の言葉の裏を読んだりしました。この読書会では国語の授業とは違った読み方を試みることができたかと思います。

読書会のあとの感想で、主体的に問題を設定し考えることが難しかった、国語の授業とは違って面白かった、皆と話していく中でどんどん読みが深まるのが面白かった、などの言葉が出てきました。先生方のフォローがあってこの読書会は成立したな、というのが私の所感です。作品の指定と、その底本の指定など入念な準備が必要だったのでは、と今は反省点ばかりです。

最後に、スチューデント・ライブラリアンの活動を通して私が学んだことを話します。簡単に言いますと、計画を立てることの難しさと人を動かすことの難しさを味わいました。どちらも正直に言うと大変なことでした。責任をもって自分たちで企画・立案し、話し、進めてもらえるようお願いしなければなりません。ですが、ここでは司書課程で学んだことを活かします。自分たちはどんなことができるのかと考えて行動できます。これらの体験はとても得がたいものです。もし、皆さんがスチューデント・ライブラリアンの活動に参加しようか迷っているならばぜひ参加すべきだと思います。勉強だけでは分からないリアルを味わうことができると思います。めんどくさい、とか怖いな、と思っているならば安心してください。私も2年生の時に同じことを思って参加せず、後悔しました。ひとまず中央大学のホームページでこれまでの活動記録を見てみてください。図書館での活動がいかに幅広いもので、自分たちの工夫が活かせるものなんだ、とわかると思います。



リエゾン文庫書目一覧 (2020年3月25日現在)

題目	著者等	出版社	配架先*
国文学専攻			
宇佐美ゼミ 第十六号 報告集 文学部国文学専攻 2013	宇佐美毅	宇佐美ゼミナール 報告集	杉並
学研まんが 日本の古典 まんがで読む万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	吉野朋美 監修	学研	杉並
後鳥羽院 コレクション日本歌人選 028	吉野朋美	笠間書院	杉並
西行全歌集	久保田淳・吉野朋美 校注	岩波文庫フェア	杉並
武士の家計簿 —「加賀藩御算用者」の幕末維新	磯田道史	新潮新書	杉並
大学授業がやってきた! 知の冒険	桐光学園特別授業	水曜社	杉並、横浜
テレビドラマを学問する	宇佐美毅	中央大学出版部	杉並、横浜
中島敦『李陵・司馬遷』定本篇	中島敦	中島敦の会	杉並、横浜
中島敦『李陵・司馬遷』図版篇	中島敦	中島敦の会	杉並、横浜
中島敦とその時代	山下真史	双文社出版	杉並
2014年度 第17号 宇佐美ゼミ報告集	宇佐美毅		杉並
白門國文 第26号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第27号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第28号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第29号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第30号	中央大學國文學會		横浜
白門國文 第31号	中央大學國文學會		横浜
村上春樹と一九八〇年代	宇佐美毅、千田洋幸 編	おうふう	杉並、横浜
村上春樹と一九九〇年代	宇佐美毅、千田洋幸 編	おうふう	杉並、横浜
慶安の触書は出されたか(日本史リブレット)	山本英二	山川書店	杉並
中央大学白門國文 第56号	中央大學國文學會		横浜
中央大学白門國文 第57号	中央大學國文學會		横浜
書籍文化史一	山本英二・丹羽謙治・磯部敦・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史二	綿抜豊昭・中島穂高・鈴木圭一・浅岡邦雄・ 磯部敦・本多朱里・古相正美・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史三	柳沢昌紀・竹松幸香・合山林太郎・大竹寿 子・浅岡邦雄・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史四	ピーター・コーニッキー・綿抜豊昭・勝又基・小林ふ み子・中澤伸弘・木越俊介・鈴木圭一・山本 英二・磯部敦・鈴木俊幸・瀧田裕子	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史五	柏崎順子・金井圭太郎・浅岡邦雄・鈴木俊 幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史六	堀川貴司・鈴木圭一・杉仁・蔵元朋依・磯部 敦・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜

題目	著者等	出版社	配架先*
書籍文化史七	高橋章則・中澤伸弘・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史八	岩坪充雄・杉仁・磯部敦・鈴木俊幸・高橋章則・高橋明彦・古相正美・五嶋靖弘・瀧田裕子・田村悦子・鄭恵珍・小村伊織・中道雅俊・矢澤由紀・宮田奈津紀・梁爽	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史九	岩坪充雄・中澤伸弘・膽吹覚・牧野正久・高橋明彦・西谷泉・玉置豊美	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十	中澤伸弘・鈴木圭一・青柳涼子・素野辰也・檜垣優・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十一	中澤伸弘・高木浩明・青柳涼子・鈴木翔・素野辰也・檜垣優・磯部敦・岩坪充雄・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十二	岩坪充雄・堀川貴司・中澤伸弘・高橋明彦・稲岡勝・青柳涼子・梅澤亜矢・鈴木翔・素野辰也・鈴木俊幸・高木浩明・太田正弘	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十三	岩坪充雄・神林尚子・中澤伸弘・高木浩明・磯部敦・早川由美・2011年度中央大学 FLP 鈴木ゼミ・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十四	岩坪充雄・中澤伸弘・高木浩明・磯部敦・FLP 鈴木ゼミ・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十五	岩坪充雄・稲岡勝・高木浩明・2013年度中央大学 FLP 鈴木ゼミ・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十六	堀部正円・岩坪充雄・太田正弘・中澤伸弘・鈴木俊幸・中央大学 FLP 鈴木ゼミ・高木浩明	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十七	太田正弘・高木浩明・鈴木圭一・中澤伸弘・稲岡勝・岩坪充雄・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十八	太田正弘・岩坪充雄・高木浩明・堀部正円・中澤伸弘・中川和明・稲岡勝・鈴木俊幸・中央大学 FLP 鈴木ゼミ	鈴木俊幸	杉並、横浜
書籍文化史十九	高木浩明・中澤伸弘・膽吹覚・岩坪充雄・稲岡勝・鈴木俊幸	鈴木俊幸	杉並、横浜
報告集第二十号	宇佐美ゼミ	宇佐美ゼミナル報告集	杉並、横浜
報告集第二十一号	宇佐美ゼミ学生	宇佐美ゼミナル報告集	杉並、横浜
英語文学文化専攻			
愛の技法 クィア・リーディングとは何か	中央大学人文科学研究所編	中央大学出版部	杉並、横浜
アメリカ太平洋研究 Vol.16 March 2016	東京大学大学院総合文化研究科 アメリカ太平洋地域研究センター		杉並、横浜

題目	著者等	出版社	配架先*
アン・ブロンテ 二十一世紀の再評価	大田美和	中央大学出版部	杉並、横浜
英国小説研究 第22冊	「英国小説研究」同人	英潮社	杉並、横浜
英米文学研究 第31号	兼武道子他	中央大学文学部 英米文学会	杉並
大田美和の本	大田美和	北冬舎	杉並、横浜
きらい 大田美和歌集	大田美和	河出書房新社	杉並、横浜
葡萄の香り、噴水の匂い	大田美和	北冬舎	杉並、横浜
ブロンテ姉妹の世界	内田能嗣	ミネルヴァ書房	杉並、横浜
北冬 No.013	北冬舎	北冬舎	杉並、横浜
ミッキーはなぜ口笛を吹くのか	細馬宏通	新潮選書	杉並
夜のミッキー・マウス	谷川俊太郎	新潮文庫	杉並
レクイエム	田口智子・絵、大田美和・短歌	エディション q	杉並、横浜
記者たちは海に向かった 津波と放射能と福島民友新聞	門田隆将	角川文庫	杉並、横浜
人生の意味論	河西良治	開拓社	杉並、横浜
2019AJALT	埴仁礼子(編集長)	国際日本語普及協会	杉並、横浜
めぐりあうテキストたち ブロンテ文学部の遺産と影響	惣谷美智子／岩上はる子編	春風社	杉並、横浜
読むことのクエア 続 愛の技法	中央大学自分科学研究所編	中央大学出版部	杉並、横浜
ドイツ語文学文化専攻			
クレーの絵本	谷川俊太郎	講談社	杉並
ジビレ・レヴィチャロフの小説『ブルーメンベルク』文化史と不死性(ドイツ文化 第六十七号抜刷)	縄田雄二	中央大学ドイツ学会	杉並
ドイツ語資料から見た留学期の斎藤茂吉(ドイツ文化 第五十五号抜刷)	縄田雄二	中央大学ドイツ学会	杉並
ドイツの歴史教育	川喜田敦子	白水社	杉並
ドゥルス・グリューンバイン詩集 墓碑銘・日本紀行	縄田雄二 編訳	中央大学出版部	杉並
マルセル・バイアー講演 翳(紀要抜刷 文学科第九十号)	縄田雄二	中央大学文学部	杉並
現代詩手帖	藤井一乃	思潮社	杉並、横浜
フランス語文学文化専攻			
九十三年(上下)	ヴィクトル・ユゴー	潮文学ライブラリー	杉並
ゴヤ 啓蒙の光の影で	T.トドロフ、小野潮 訳	法政大学出版局	杉並
ジャン＝ジャック・ルソー 自己充足の哲学	永見文雄	勁草書房	横浜
十九世紀フランス文学を学ぶ人のために	小倉孝誠	世界思想社	杉並
西洋美術への招待	田中英道 監修	東北大学出版会	杉並
対訳 フランス語で読む「赤と黒」	小野潮	白水社	杉並
中大仏文研究 第45号	中大仏文研究会		横浜
中大仏文研究 第46号	中大仏文研究会		横浜
フクシマ・ノート 忘れない、災禍の物語	ミカエル・フェリエ、義江真木子	新評論	杉並、横浜

フランス革命と文学	ベアトリス・ディディエ	白水社	杉並
フランス 19 世紀絵画	阿部成樹 他	ホワイトインターナショナル	杉並、横浜
屈服しない人々	ツヴェタン・トドロフ小野潮訳	新評論	杉並、横浜
ゴヤ 啓蒙の光の影で	ツヴェタン・トドロフ小野潮訳	法政大学出版局	杉並、横浜
ジェルメーヌ・ティヨン	ティヨン著小野潮訳	法政大学出版局	杉並、横浜
中国言語文化専攻			
現代中国のポピュラーカルチャー	飯塚容 他	勉誠出版	杉並
現代中国文化の光芒	中央大学人文科学研究所編	中央大学出版部	杉並、横浜
死者たちの七日間	余華、飯塚容 訳	河出書房新社	杉並
中国故事	飯塚容	角川ソフィア文庫	杉並、横浜
中国人エリートは日本人をこう見る	中島恵	日経プレミアシリーズ	杉並
中国の「新劇」と日本 「文明戯」の研究	飯塚容	中央大学出版部	杉並
富萍 上海に生きる	王安憶、飯塚容・宮入いずみ 訳	勉誠出版	杉並
霊山	高行健、飯塚容 訳	集英社	杉並
中国動漫新人類 日本のアニメと漫画が中国を動かす	遠藤誉	日経 BP 社	杉並
会うための別れ 過士行 短編小説集	菱沼彬晁 訳	晩成書房	杉並、横浜
父を想う ある中国作家の自省と回想	閻連科、飯塚容 訳	河出書房新社	杉並、横浜
いま、世界で読まれている 105 冊 2013	TEN-BOOKS 編	テン・ブックス	杉並、横浜
文化大革命を問い直す	朝浩之・金野純・陳継東・前田年昭 印紅標・鈴木一誌・森瑞枝・松本潤一郎・及川淳子		杉並、横浜
中国リベラルズムの政治空間	李偉東・鈴木賢・及川淳子・秦暉・徐友漁・梶谷懐・王侃・吉岡桂子・栄剣・牧陽一・賀衛方・阿古智子・水谷尚子・王建勛・張博樹		杉並、横浜
最後の審判を生き延びて	劉曉波		杉並、横浜
憎しみに未来はない 中日関係新思考	馬立誠		杉並、横浜
中国語で伝えたい自分のこと日本のこと	及川淳子		杉並、横浜
わたしの中国語 32 のフレーズでこんなに伝わる	及川淳子		杉並、横浜
おもてなしの中国語 2018 年度 4-9	及川淳子		杉並、横浜
おもてなしの中国語 2018 年度 10-3	及川淳子		杉並、横浜
中国語をはじめよう	及川淳子		杉並、横浜
現代中国を知るための44章	藤野彰・曾根康雄		杉並、横浜
上海	榎本泰子		杉並、横浜
アジアと生きるアジアで生きる	鄭俊坤・金大偉・柳玟熙・飯塚容・大田美和・藤岡朝子・妹尾達彦・村上薫・佐藤洋治・長谷川彩未・ローナ・コフラー・鎌田東二・趙維平・麻生晴一郎		杉並、横浜
作家たちの愚かしくも愛すべき中国	高行健・余華・閻連科		杉並、横浜

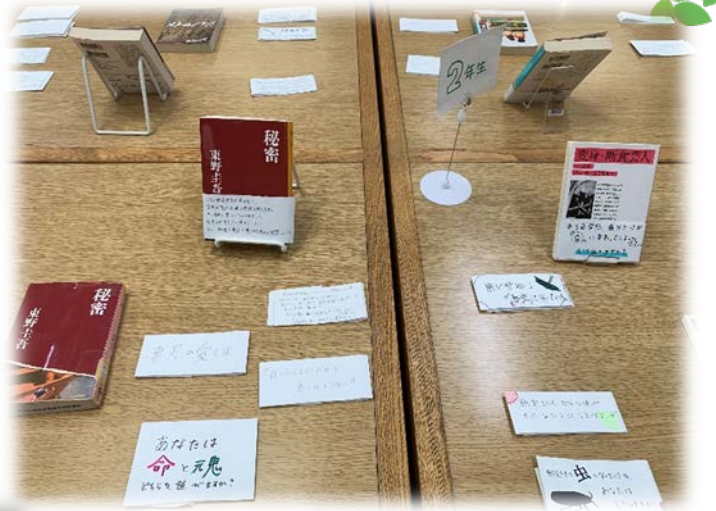
11 通の手紙	及川淳子	小学館	杉並、横浜
銃弾とアヘン	廖亦武・土屋昌明/鳥本まさき/及川淳子訳	白水社	杉並、横浜
起きてから寝るまで中国語表現 1000	顧蘭亭/及川淳子	アルク	杉並、横浜
現代中国を知るための52章	藤野彰	明石書店	杉並、横浜
「〇八憲章」で学ぶ教養中国語	劉燕子/及川淳子	集告舎	杉並、横浜
日本史学専攻			
外務官僚たちの太平洋戦争	佐藤元英	NHK ブックス	杉並、横浜
魏志倭人伝の考古学	佐原真	岩波書店	杉並
3・11複合災害と日本の課題	佐藤元英、滝田堅持	中央大学出版部	横浜
市民の考古学 4 考古学でつづる日本史	藤本強	同成社	杉並
昭和初期対中国政策の研究 田中内閣の対満蒙政策	佐藤元英	原書房	杉並
縄文社会研究の新視点 -炭素 14 年代測定の利用-	小林謙一	六一書房	横浜
中央史学 創刊号	中央史学会		横浜
中央史学 第 2 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 3 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 4 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 5 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 6 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 7 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 8 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 9 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 10 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 11 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 12 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 14 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 15 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 17 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 19 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 20 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 21 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 22 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 23 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 24 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 25 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 27 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 29 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 31 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 32 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 34 号	中央史学会		横浜

中央史学 第 35 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 36 号	中央史学会		横浜
中央史学 第 37 号	中央史学会		横浜
日本の中世 12 村の戦争と平和	坂田聡、榎原雅治、稲葉継陽	中央公論新社	杉並
発掘で探る縄文の暮らし 中央大学の考古学	小林謙一	中央大学出版部	杉並、横浜
苗字と名前の歴史	坂田聡	吉川弘文館	杉並
民衆と天皇	坂田聡、吉岡拓	高志書院	杉並
東洋史学専攻			
アジア史における制度と社会	中央大学東洋史学研究室 編	白東史学会	杉並
池田雄一教授古稀記念アジア史論叢	中央大学東洋史学研究室 編	白東史学会	杉並
イスラム世界論 トリックスターとしての神	加藤博	東京大学出版会	杉並
環境から解く古代中国	原宗子	大修館書店	杉並
菊池英夫教授山崎利男教授古稀記念アジア史論叢	中央大学東洋史学研究室 編	刀水書房	杉並
サラディン イェルサレム奪回	松田俊道	山川出版社	杉並、横浜
中央大学 アジア史研究 第 37 号	白東史学会 中央大学文学部東洋史研究室		横浜
中央大学 アジア史研究 第 38 号	白東史学会 中央大学文学部東洋史研究室		横浜
中央大学東洋史学専攻創設五十周年記念 アジア史論叢	白東史学会	白東史学会	杉並
明代中国の疑獄事件	川越泰博	風響社	杉並
遊牧民から見た世界史 増補版	杉山正明	日本経済新聞出版社	杉並
四字熟語歴史漫筆	川越泰博	大修館書店	杉並
川越泰博教授 古稀記念アジア史論叢	中央大学東洋史学研究室 編	白東史学会	杉並、横浜
アンコール遺跡と社会文化発展 アンコール・ワットの解明4	石澤良昭 監修・坪井善明 編	連合出版	杉並、横浜
カンボジアの民話世界	高橋宏明 訳／編	めこん	杉並、横浜
グローバル・ヒストリー	妹尾達彦	中央大学出版部	杉並、横浜
西洋史学専攻			
英雄詩とは何か	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
近世ヨーロッパ軍事史	A・バルベロー	論創社	杉並
広義の軍事史と近世ドイツ —集権的アリストクラシー・近代転換期	鈴木直志	彩流社	杉並
哲学専攻			
愛の哲学、孤独の哲学	アンドレ・コント＝スポンヴィル、 中村昇、他 訳	紀伊國屋書店	杉並
ワイトゲンシュタイン ネクタイをしない哲学者	中村昇	白水社	杉並
ワイトゲンシュタイン「哲学探究」入門	中村昇	教育評論社	杉並、横浜
小林秀雄とワイトゲンシュタイン	中村昇	春風社	杉並、横浜
ささやかながら、徳について	アンドレ・コント＝スポンヴィル、 中村昇、他 訳	紀伊國屋書店	杉並
シーシュボスの神話	カミュ	新潮文庫	杉並
色彩について	ルートヴィヒ・ワイトゲンシュタイン、 中村昇、他 訳	新書館	杉並

ベルクソン=時間と空間の哲学	中村昇	講談社	杉並、横浜
ホワイトヘッドの哲学	中村昇	講談社	杉並、横浜
母の発達	笹野頼子	河出文庫	杉並
どこでもないところからの眺め	トマス・ネーゲル、中村昇、他 訳	春秋社	横浜
社会学専攻			
【改訂版】戦後日本青少年問題考	矢島正見	一般財団法人 青少年問題研究会	杉並、横浜
家族革命	清水浩昭、森謙二、岩上真珠、山田昌弘	弘文堂	杉並、横浜
「家族」難民 生涯未婚率 25%社会の衝撃	山田昌弘	朝日新聞出版	杉並、横浜
家族の衰退が招く未来 「将来の安心」と「経済成長」は取り戻せるか	山田昌弘、塚崎公義	東洋経済新報社	杉並、横浜
家族のリストラクチャリング 21世紀の夫婦・親子はどう生き残るか	山田昌弘	新曜社	杉並、横浜
高校生のための人気学問ガイド	矢島正見	旺文社	杉並
「婚活」時代	山田昌弘、白河桃子	ディスカバー携書	杉並、横浜
少子社会日本 もうひとつの格差のゆくえ	山田昌弘	岩波書店	杉並、横浜
女性活躍後進国ニッポン	山田昌弘	岩波書店	杉並、横浜
震災婚 震災で生き方を変えた女たち ライフスタイル・消費・働き方	白河桃子	ディスカバー携書	杉並、横浜
新平等社会 「希望格差」を超えて	山田昌弘	文芸春秋	杉並、横浜
旅をして、出会い、ともに考える— —大学ではじめてフィールドワークをするひとのために	新原道信	中央大学出版部	杉並
中央社会学 第22号 2013	中央大学文学部社会学会		横浜
中央社会学 第23号 2014	中央大学文学部社会学会		横浜
なぜ若者は保守化するのか 反転する現実と願望	山田昌弘	東洋経済新報社	杉並、横浜
パラサイト社会のゆくえ データで読み解く日本の家族	山田昌弘	ちくま新書	杉並、横浜
パラサイト・シングルの時代	山田昌弘	ちくま新書	杉並、横浜
ワーキングプア時代 底抜けセーフティネットを再構築せよ	山田昌弘	文芸春秋	杉並、横浜
結婚クライシス (中流転落不安)	山田昌弘	東京書籍	杉並、横浜
モテる構造 男と女の社会学	山田昌弘	ちくま新書	杉並、横浜
社会情報学専攻			
インターネットが壊した「こころ」と「言葉」	森田幸孝	幻冬舎 ルネッサンス新書	杉並
うわさとは何か ネットで変容する「最も古いメディア」	松田美佐	中公新書	杉並、横浜
うわさの謎 流言、デマ、ゴシップ、都市伝説はなぜ広がるのか	松田美佐、川上善郎、佐藤達哉	日本実業出版社	杉並、横浜
SF映画で学ぶインタフェースデザイン アイデアと想像力を鍛え上げるための141のレッスン	NATHAN SHEDROFF, CHRISTOPHER NOESSEL	丸善出版	横浜
ケータイ学入門 メディア・コミュニケーションから読み解く 現代社会	松田美佐、岡田朋之	有斐閣	杉並、横浜
ケータイ社会論	松田美佐、岡田朋之	有斐閣	杉並
ケータイのある風景 テクノロジーの日常化を考える	松田美佐、岡部大介、伊藤瑞子	北大路書房	杉並、横浜
C言語によるスーパーLinux プログラミング	飯尾淳	softbank creative	横浜
ラーニング・コモンズ	加藤信哉・小山憲司	勁草書房	杉並、横浜

小山ゼミ論文集第1号	小山ゼミ学生	小山憲司ゼミナール	杉並、横浜
小山ゼミ論文集第2号	小山ゼミ学生	小山憲司ゼミナール	杉並、横浜
社会情報学ハンドブック	吉見俊哉、花田達朗	東京大学出版会	杉並
情報貧国ニッポン～課題と提言	山崎久道	紀伊国屋書店	横浜
図書館・アーカイブズとは何か	粕谷一希、菊池光興、長尾真 編	藤原書店	杉並
趣味とジェンダー	神野由紀／辻泉／飯田豊	青弓社	杉並、横浜
小山ゼミ論文集 第3号	小山ゼミ学生	小山憲司ゼミナール	杉並、横浜
教育学専攻			
イチから始める 外国人の子供教育	臼井智美 編	教育開発研究所	杉並
教育学をつかむ	木村元、小玉重雄、船橋一男	有斐閣	杉並
まんが クラスメイトは外国人—多文化共生の物語	「外国につながる子供たちの物語」 編集委員会編	明石書店	杉並
心理学専攻			
面白いほどよくわかる！臨床心理学	下山晴彦	西東社	杉並
小学生の生活とこころの発達	心理科学研究会	福村出版	横浜
心理学論文の書き方 おいしい論文のレシピ	都筑学	有斐閣アルマ	杉並、横浜
中高生のためのメンタル系サバイバルガイド	松本俊彦 編著	日本評論社	杉並
やさしい青年心理学	白井利明、都筑学、森陽子	有斐閣アルマ	杉並、横浜
やさしい発達心理学 乳児から青年までの発達プロセス	都筑学	ナカニシヤ出版	杉並、横浜
その他			
アジア史における法と国家	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
アルス・イノヴァティーヴァ	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
イデオロギーとアメリカン・テキスト	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
埋もれた風景たちの発見 ヴィクトリア朝の文芸と文化	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
芸術のイノベーション	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
ツアロートの道 ユダヤ歴史・文化研究	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
民国前期中国と東アジアの変動	中央大学人文科学研究所 編	中央大学出版部	杉並
文法記述の諸相	野田時寛・藤原浩史・林明子・西沼行博・谷部弘子・工藤早恵・遠藤雅裕・大羽良・若林茂則・市川泰男・新井洋一	中央大学出版部	杉並、横浜
文法記述の諸相Ⅱ	野田時寛・藤原浩史・大羽良・林明子・西沼行博・工藤早恵・遠藤雅裕・堀田隆一・千葉修司・新井洋一	中央大学出版部	杉並、横浜
恋愛 家族 そして未来	中村昇／坂田聡／横湯園子／宇佐美毅／杉崎泰一郎／中尾秀博／野口薫／齊木眞一／榎本泰子／松田俊道／松田美佐／矢島正見／古賀正義	中央大学	杉並、横浜

配架先* 杉並＝中央大学杉並高等学校 横浜＝中央大学附属横浜高等学校



読書会 感想

- 最初読んだ感想とは全く違う観点に着地した
- 話と話していく中で読みが深まった
- 国語の授業とは違って自分で問い方を立てる





2019 年度

スチューデント・ライブラリアン活動報告書

令和 2 年 3 月 25 日 発行

©中央大学文学部